

(決算短信補足説明資料)



2023年3月期 連結決算概要

前期比、**“増収減益決算”**となった。

■ 主な要因

- ・ 受注高は586億円と**前期比101億円のプラス**となった。
景気が回復基調で推移する中、民間設備投資に持ち直しの動きが見られ、当社グループにおいても、年度後半から主要顧客を中心に受注高が伸長したことで、前期と比較し大幅な増加となった。
- ・ 売上高は537億円と**前期比5億円のプラス**となった。
年度末にかけて完成引渡しとなった大型プロジェクト工事を中心に、設計変更の増額が獲得できたことに加え、年度後半に伸長した受注工事の進捗等が寄与し、前期と比較し微増となった。
- ・ 営業利益は26億円と**前期比3億円のマイナス**となった。
売上高の伸長に加え、原材料価格高騰分の価格転嫁が一部工事で認められたものの、当期は採算の厳しい工事の進捗・完成が多く、また新基幹システムや研修センター実習設備増設等の減価償却費により販売費および一般管理費が増加したため、前期と比較し利益率が低下となった。
- ・ 親会社株主に帰属する当期純利益は21億円と**前期比2億円のマイナス**となった。

連結損益計算書



	2022年3月期		2023年3月期		(億円) 前期比
受注高	485		586		+101
売上高	532		537		+5
営業利益	30	5.8%	26	5.0%	▲3
経常利益	33	6.2%	30	5.7%	▲2
親会社株主に帰属 する当期純利益	24	4.5%	21	4.0%	▲2

※ 記載されている割合は、利益率を表しております。

※ 前期比含め各数値は、表示単位未満を切り捨てて表示し、比率は単位未満を四捨五入しております。（以降同様）

セグメント別 売上高・利益

(億円)

	2022年3月期	2023年3月期	前期比
売上高 ※1	532	537	+5
電気設備工事業	503	505	+1
兼業事業	24	28	+3
不動産賃貸事業	3	3	+0
セグメント利益	59	57	▲1
電気設備工事業	57	54	▲2
兼業事業	▲0	0	+1
不動産賃貸事業	1	2	+0
調整額 ※2	▲28	▲31	▲2
連結営業利益	30	26	▲3

※1 セグメント別売上高は、外部顧客に対するものであります。

※2 「調整額」には、報告セグメントに帰属しない本社費用等が含まれます。

連結貸借対照表

(単位：億円)

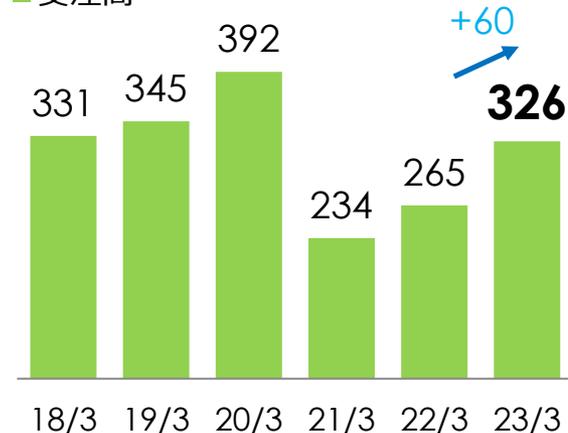
	2022年3月期	2023年3月期	増減
流動資産	441	465	+24
固定資産	357	363	+5
資産合計	798	828	+29
流動負債	171	183	+12
固定負債	72	77	+4
負債合計	243	260	+17
純資産合計	555	567	+12
負債純資産合計	798	828	+29
自己資本比率	69.5%	68.5%	▲1.0P

※自己資本比率 = (純資産-非支配株主持分) / 総資産

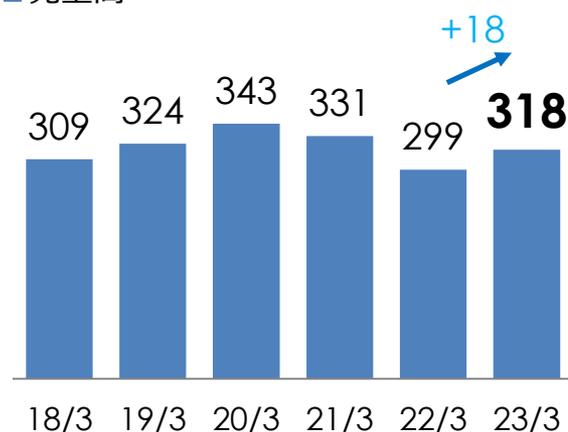
■ 主な要因（対前期比）

- ・流動資産は、主に完成工事未収入金の増加等により前期比24億円の増加。
- ・固定資産は、主に静岡営業所の建物、リース資産（工事用車両）の取得に伴う有形固定資産の増加等により前期比5億円の増加。
- ・流動負債は、主に工事未払金等の仕入債務、未払法人税等の増加等により前期比12億円の増加。
- ・純資産は、利益剰余金及び有価証券評価差額金の増加等により前期比12億円の増加。
- ・自己資本比率は、68.5%と前期比1.0Pの低下。

■ 受注高 (億円)



■ 売上高 (億円)



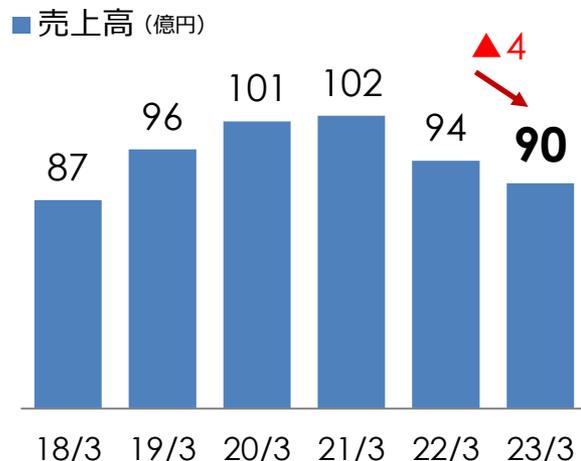
主なポイント

- 受注高は、326億円と前期比60億円の増加
 ➔発注者の業績改善傾向を受け、当社グループの受注高も徐々に伸長し始めている。年度後半には複数の新規大型工事や設計変更増額により受注を確保した。
- 売上高は、318億円と前期比18億円の増加
 ➔北陸新幹線延伸工事のほか、渋谷駅改良工事など各大型工事の進捗・完成が寄与した。また受注の増加を受けて売上高も改善しつつある。

主な施工実績

※進行基準工事継続分含む。

- ・北陸新幹線電力設備／電車線路設備／通信設備等新設
- ・渋谷駅電車線設備／電力設備／通信設備等改良他
- ・埼京線戸田・中浦和間電車線路修繕
- ・東北新幹線那須塩原・北上間電車線設備修繕その他
- ・大船駅外1区間信号設備改良他
- ・成田駅連動装置取替信号設備改良他



主なポイント

- 受注高は、103億円と前期比13億円の増加
 ➔都道府県警察の交通信号機工事は堅調に推移した。高速道路各社の標識工事はやや低調であったものの、情報板等の通信設備工事、恒久足場や遮音壁等の構造物改良工事によりカバー。
- 売上高は、90億円と前期比4億円の減少
 ➔全国の交通信号機工事、首都高速道路の標識補修工事が順調に進捗・完成し、概ね平年水準を維持した。

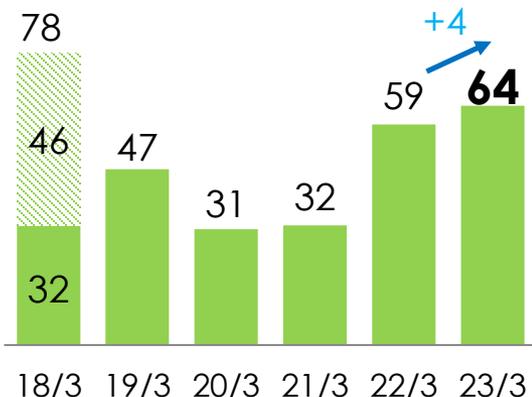
主な施工実績

※進行基準工事継続分含む。

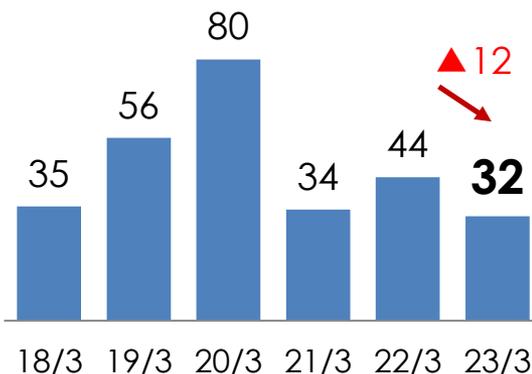
- ・首都高速道路標識補修工事
- ・東名阪自動車道大山田 P A 他照明設備工事
- ・高崎河川国道標識・区画線設置工事
- ・警視庁管内交通信号機移設、改良工事
- ・愛知県警管内交通信号機移設、改良工事

■ 受注高 (億円)

※18/3期は1件名で46億円の受注となる大型プロジェクト工事を含む



■ 売上高 (億円)



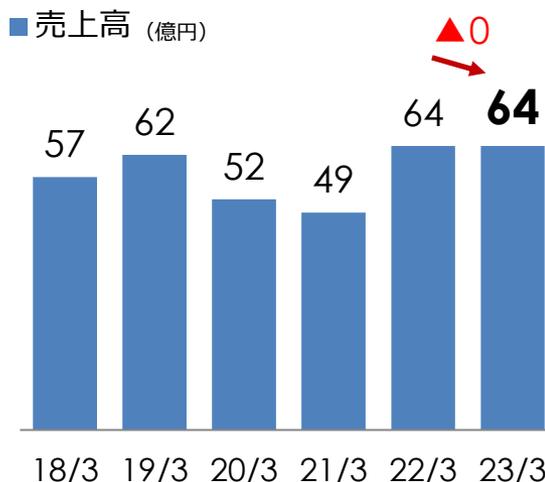
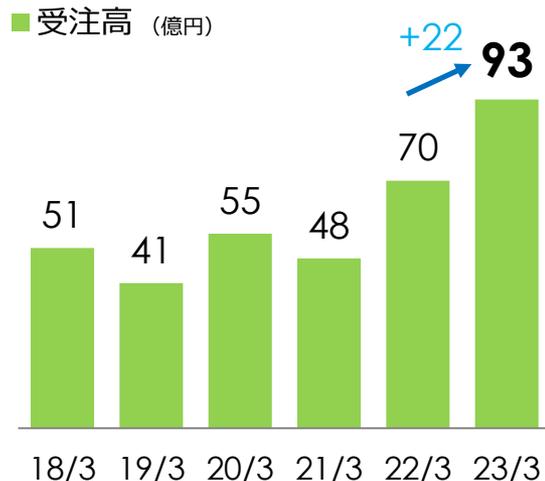
主なポイント

- 受注高は、64億円と前期比4億円の増加
 →官公庁や商業施設等の受注獲得に尽力し前期比増加。高輪ゲートウェイ駅周辺開発工事（JV）や駅ビルの電気設備改良など、大型プロジェクト工事の受注が寄与した。
- 売上高は、32億円と前期比12億円の減少
 →各工事の施工は順調に推移したが、年度前半の受注が低調であったことにより売上高が伸長せず、前期比減少となった。

主な施工実績

※進行基準工事継続分含む。

- ・日本銀行広島支店受変電・空調設備等改修工事
- ・日本スポーツ振興センター照明設備他改修工事
- ・J R大宮新現業事務所電気設備新設工事
- ・品川開発プロジェクトまちエネ工事
- ・駅ビル等商業施設の電気設備新設・改修工事



主なポイント

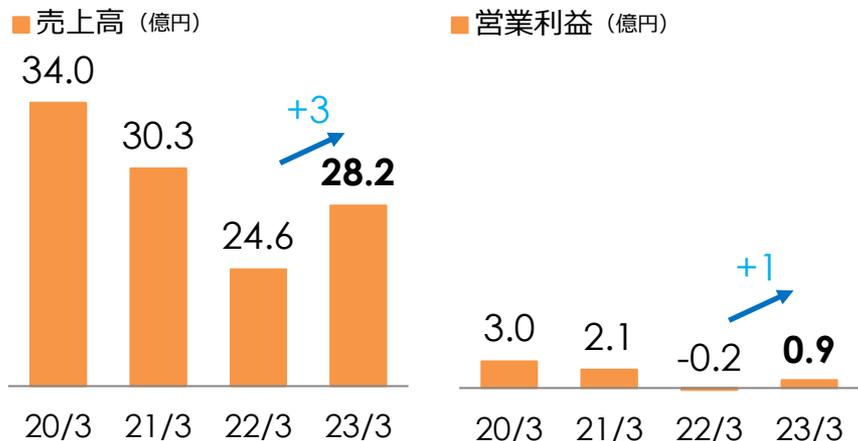
- 受注高は、93億円と前期比22億円の増加
 - ➡各電力会社からの鉄塔建替や電線張替工事、地域間連系線など複数の大型工事受注により、前期比大幅な増加となった。
- 売上高は、64億円と前期比同水準
 - ➡地域間連系線工事のほか、各地区における大型送電線建設・改修工事が順調に進捗・完成した。今後もこれら工事の進捗が売上高に寄与する。

主な施工実績

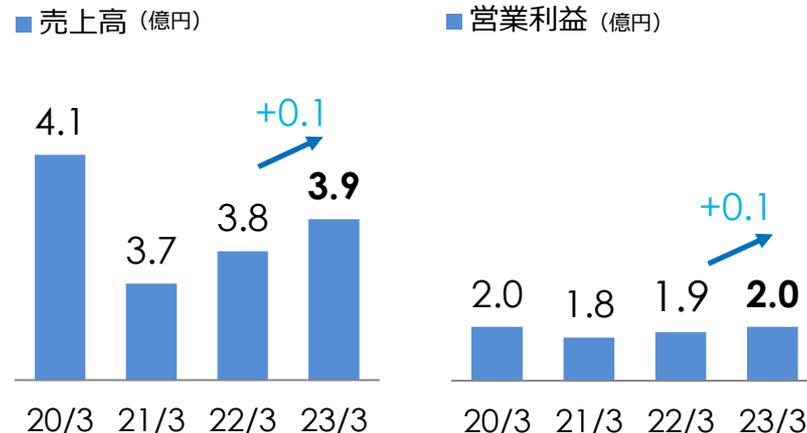
※進行基準工事継続分含む。

- ・ 御坂線ルート変更工事並びに除却工事
- ・ 宮城丸森幹線新設鉄塔工事
- ・ 清水南線鉄塔建替並びに除却工事
- ・ 阿蘇線鉄塔建替並びに除却工事
- ・ 姉崎共火線新設並びに除却工事
- ・ 川世線鉄塔建替並びに除却工事

兼業事業



不動産賃貸事業



<兼業事業の内容>

- 交通施設に関する標識及び交通安全用品の製造、販売業務
- 建物・関連設備の保守管理業務、機械装置・仮設材関係の保守管理業務



大崎ブライトタワー
(区分所有)



NR大阪中津ビル
(テナント)

2024年3月期 連結業績予想

連結業績予想サマリー



2024年3月期決算は **“増収増益”** を見込む

■ 業績予想要旨

- ・ 新型コロナウイルス感染症の沈静化傾向や政府の各種経済対策等の効果に支えられ、景気は緩やかな回復基調で推移するものと想定。
- ・ 当社グループの主要顧客は、コロナ影響による大きな業績の落ち込みから回復傾向にあり、工事の発注時期や受注条件等も改善されつつある。
- ・ 前期繰越工事高の増加に加え、改善されつつある受注環境を背景に、各部門とも工事は順調な推移が見込まれ、売上高は前期比42億円の増加を見込む。
- ・ 一方、前期からの繰越工事には受注条件の厳しい工事も未だ含まれるほか、近時の原材料価格や人件費の高騰も影響し、利益率の回復は限定的と想定。営業利益・経常利益・親会社株主に帰属する当期純利益はともに前期比1～2億円ほどの増加を見込む。

連結業績予想



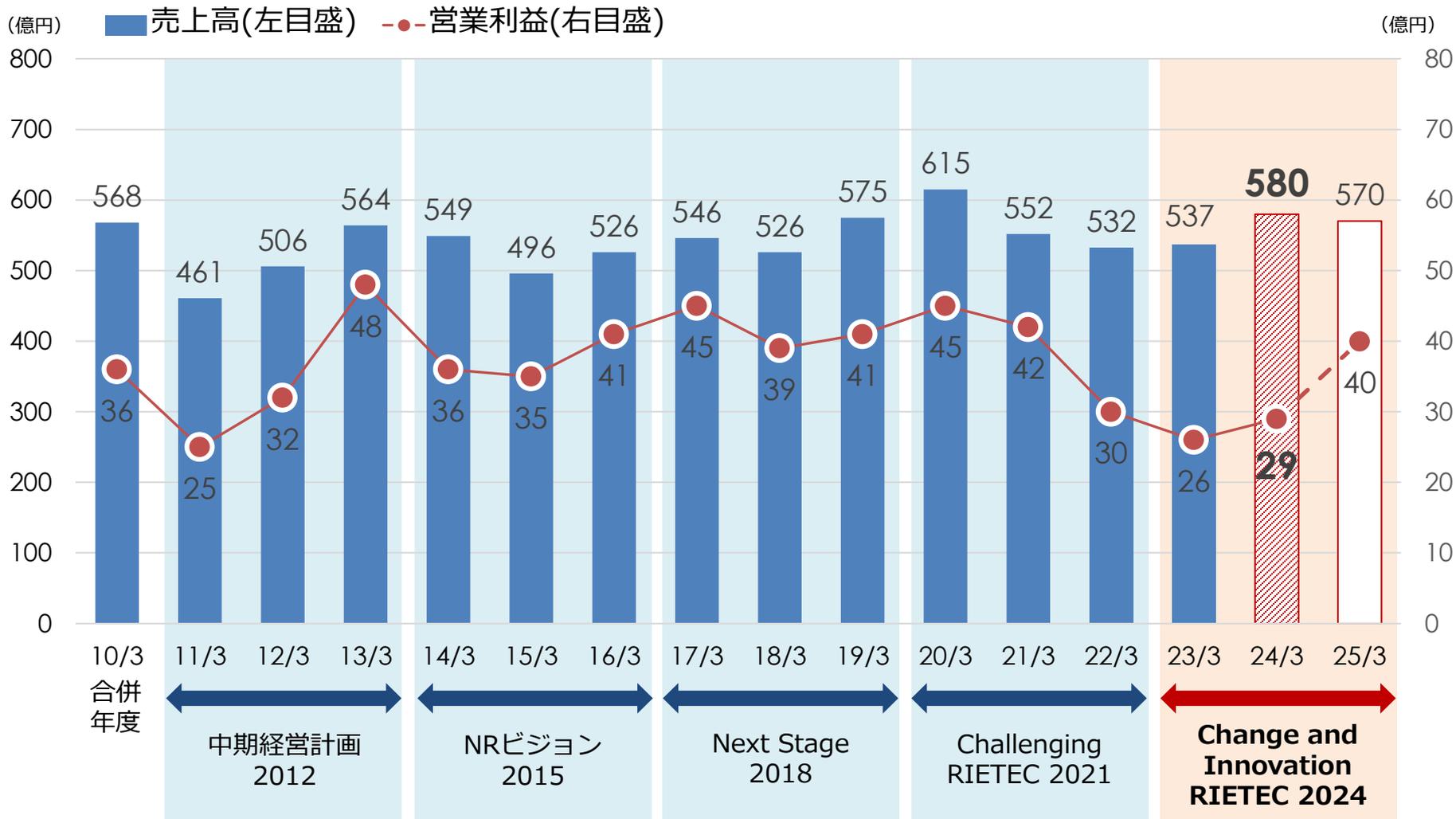
(単位：億円)

	2023年3月期 (実績)		2024年3月期 (予想)		前期比
売上高	537		580		+42
営業利益	26	5.0%	29	5.1%	+2
経常利益	30	5.7%	33	5.7%	+2
親会社株主に帰属する 当期純利益	21	4.0%	23	4.0%	+1

※ 記載されている割合は、利益率を表しております。

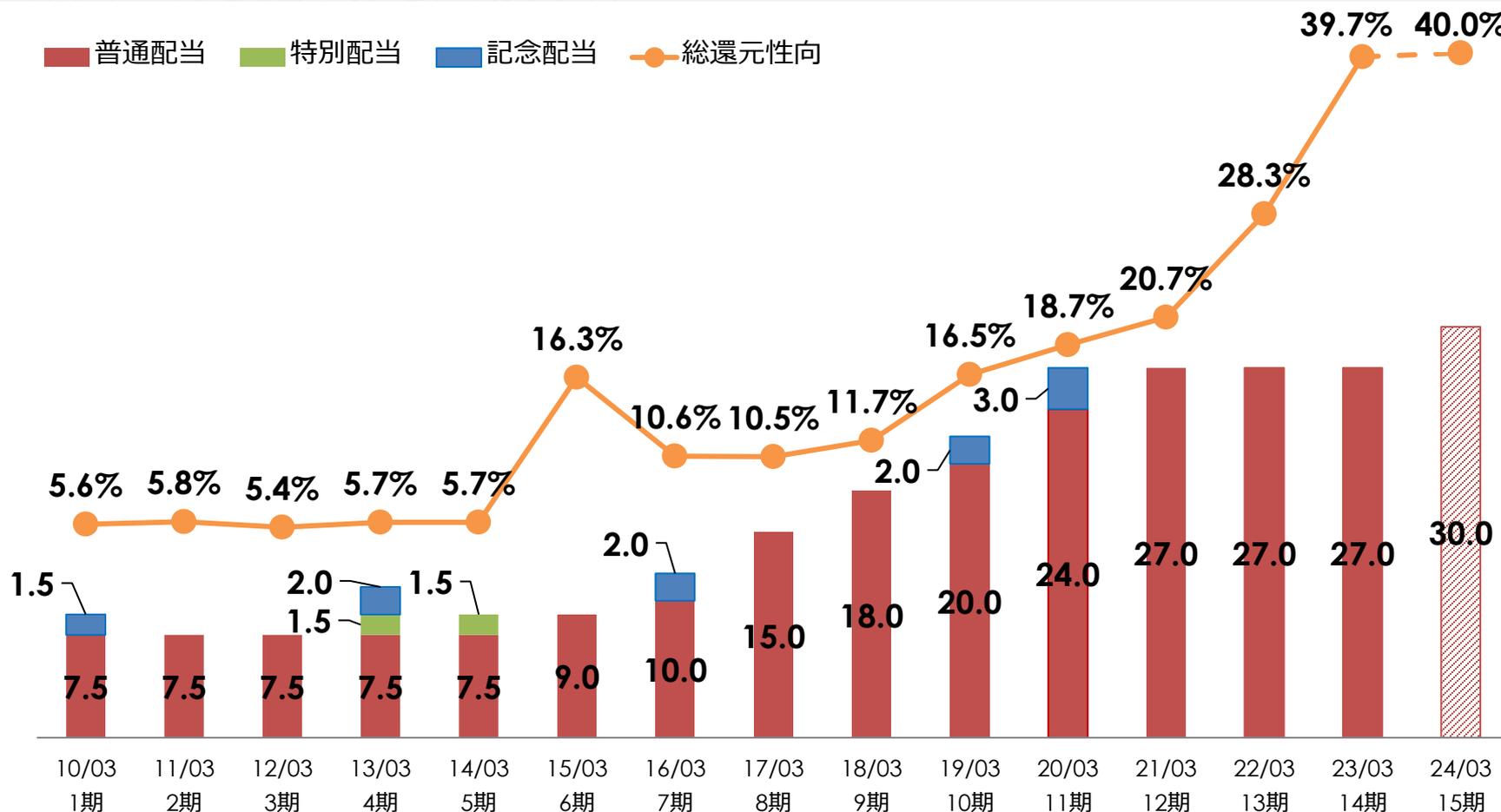
※ 前期比含め各数値は、表示単位未満を切り捨てて表示し、比率は単位未満を四捨五入しております。

売上高及び営業利益の推移（連結）



配当方針及び配当状況の推移

当社は、株主の皆様への利益還元を経営の重要課題と位置付けており、安定的な配当の継続と機動的な自己株式の取得を通じて、株主の皆様への利益還元の拡充と資本効率の向上を目指しております。利益配分については、将来にわたる持続的な成長への備えと株主の皆様への利益還元の両立、配分の最適化を図り、総還元性向40%を目安として決定していくことを基本方針としております。



本資料に記載されている業績予想等の将来に関する記述は、日本リーテックグループが現時点で入手可能な情報及び合理的と判断する一定の前提に基づいており、実際の業績等は様々な要因によって異なる結果となる可能性があります。

なお、異なる結果となった場合でも当社は本資料を改定する義務を負いかねますので、ご了承ください。

(お問い合わせ先)

日本リーテック株式会社
経営企画部 広報・IRグループ

〒101-0054 東京都千代田区神田錦町1-6
T E L : 03-6880-2714
F A X : 03-6880-2750
H P : <https://www.j-rietec.co.jp/>